



ル 2
3097
2



門 凡 2
號 3097
卷 2

日本行紀



第七篇

香港

港 = 到着

香港の位置形状

市中の遊歩

交易及散步

畫畵值廉

佛堂

巫祝

早稲田 大塚 優待
262.5
茶

支那に在る英國弘法使者

船卒の戯劇

媽港の灣泊支那海一千八百五十三年癸酉

月十七日

前の書簡の終に述たる如く八日の晚我們香港の港に入る英吉利人の之れを或多刺ト名づく是より後々平常の職掌よて訪尋し及び禮儀接待を以て大半月日を送りける英吉利と我アレカッ船との間交々祝砲を点放する間余多くの將校輩と共に堤よ上る府内を略一見せんや為

あり此港も近年英吉利よて統領せり諸港の如く形勢佳好あり此山島も周回十八里より二十里に至る大さよしく其北邊の位置も同様の出島の一群の中よ在て其本島の廣濶なる港よ二個の相對せる入り口を造り出し何の方の風候にも危劇の志なく入港を欲し大利あるに至る十五アリスの深さの船脚ある船を岸を距るこゝと遠からざる地まで葉入して旋を下し二十五アリスの船脚の者も危篤の恐なく水濱よ近づくこと三百より四百ヤルズに到り得る海

底土性粘滑海岸の近地まで至好性の旋泊土を
具へ其旋を矢ひて海塘より向て冲衝する船楫も
害を受る事あり又あるは附言ふべきは此港も
八百より止より一千尺の高さの山より四方を
圍擁する「テイポー」を屍障は此風吹き然ら
ざれば此海中まで甚危害を生ると云ふ防禦よ
就て云ふも此港も亦堅固なる地形より二三
の砲台ニ軍艦「カリ子」ルホト止舟若くは浮砲
を合しと兩港口も備ふれは敵の攻伐を拒敵し
るに足れり此諸利益も兼く此島の「カウニート」

石質の山岳も良性の水泉を多く流出し且石炭
の形怪奇を極む「コニ」コル」と云へる者功智を
以て此山も籠りをれると見テ知らし此島の
産類も此地もては食物を産せし米麦も外より
輸入するを要するに在り英国と支那の戦の
時西港口も頗る大なる城あり第二の内地の中
央にある城と相救應し兩城も滿洲の強兵屯成
を香港も如何はと交易して大利を享ると聞
、此地の逐年急に繁昌するは許多宏大の公館
壯麗廣大の人家街衢の廣宏して繁昌せる状土

人生理皆富贍なる景色よて其大利益あるを知ら
る。一、二三年前より此地只一條の海岸に循へる
街上下の方へか今より一ハ近く相並ひたる街
一々上の方へ舟を街衢三條相合し更に横行の
街若くも土地によりてハ石の階級を以て互に
相連る又山と突起せる歌側の地の間は谿澗を
公館衙門よて闌咽せしこれに属する者も猶未
建築終らざる鎮台の新築其地を稍隴起る位置
にて一半も人工にて築起せり此新築は近つて
て上下に歩兵の兵營あり又魁首なる寺院あり

ルツ、ヒス、ユツ、第一の僧官の殿一ハテメント軍人の兵
營これかり然もとも某建築の英吉利風よて幕
做せる「コッテ」古の工様の土木を地方と相應せし
擲祭亜風羅瑪風或を擬古の土木を限りなく土
地氣候と相應せるを覺ふ但し「ヨニヒル」性質を
人の知る如く全世東を多少を問ふを必らず
英吉利と關係せりと思ふ。他ハ扈任せる所
ハ其本国にて食用とる品物を備ふ諾耳勿筆
亜リヲ、ヤ子、イロ赫、ル再勿、ア葦、ア氷澗、セ謙、ア麻、ア那、ア壓、ア山
麓、テ泥、ル河、ル源、ア廣、ア東、アハ、スハ、ニ諸地、ノ如、キ到、ル所、皆

茶と煮たる卵とを朝食と取り到る所「トアステ」
多麵「ベー」フステーキ英吉利の牛肉汁を食ひ殊よ「モル」モル「コ」コ「ロ」ロ「ニ」ニ
毎朝の記録の義日記と以て時日を遣まざるよ備ふと云ふ其
 若く國風に痼著妄執して變せされ太氏ア「イ」
ビオ「シ」英吉利の古名の鉅大なる国力に因て然るよ其
 らさるこ覚明かある必ふも其父母の國
 の風俗を堅く守るるを嘲笑と入きよあら此
 天性よ固く善惡の舊習よ固着して變化と一か
 らさるよ至るの如何も余輩の命内よあはは國
 政よ柄とる人仁慈を務むる人及び世界を周流

して一所不住の身を保つ人の處置とる所よ任
 是爰よを獨り香港に建たる英吉利風よて造築
 したる「ゴックス」王様の上木の景趣工匠の眼目よて
 視るよ我が意よ投せざるを述るのよ又余驚視
 したる汚穢よて惡臭ある支那人の街かり街と狹隘
 よして闇黒かり雜沓して多くを肥牒せる人のこ
 ろ其家矮小最下一層を太氏店せとかり其餘
 此店宅の後房を設け亦闇く狹き階子よて二階
 よ弁る此二階を前よ着出たる下屋の上五六尺
 許よ聳ふ親眷の臥房たり此店子の前を全く

開敬と太氏此處に於て飲食以外より候ひて此人輩
の家眷相接待らるる状を想見するは是をみるに至る此
地は裁縫工あり二三の僕従其且を十字様と交架
し盤坐らるるを見る此人種を余が到れる諸地
て其血族蔓延せらる一種族の人たり又履工兌鋪
を見る兌鋪を鉅大なる眼鏡を用く受取たる
ルラ此錢錠を査照し因り多く索子は貫たる支
那のソレニ相應せる錢をソレラ此一錢を其
錢一千二百五十文は當るこまカス貫の唐音ハ詩
と呼ぶ強壯の下男も五六枚の「ドル」の價の錢

を僅し肩挑し得るの遊行人著作家といふ
子自ら溜ふ一酒肆
の後堂の落成し招かましか諸色の分らるる品
小片は切らる肉葱「オリーブ」油且外蕃の野菜菓實
類を多く備へたり支那の口腹家を其を延き
支那からくる人々其を謝せり此酒家の對面
「シンタウ」云々人の画室あり是人々列郡
畠人の肖像並に地圖を画かくを業とし亦樂器
を撞馬と此時此名工も人若くは十人の弟子と
共に甚だ淺近にして世に争ひ購らるる物産の
真を寫し此人の主旨を價を廉にせらるに在り二

同ルラ此よて三尺許の大きさの香港地畠を買得たり油顔色アキを用く画かけり程好く價よりて買へる奇巧は黒く漆よく塗たる木匠の容きて與へたる此木匠を固よ里殆んと二同ルラ此許の價なりとも細貨と多買は是は画を添へくもたるるあり支那画学の著しき譬へを云ハ、口イストハヒ一此米紙の義といへり紙は水画の是を用て六同イムより八同イム迄の高さよて支那の衣服を画きたり一雙の同ルラ此を出せを十ニ枚をろひく購り得へり衣服を真と摸して清

密に寫し體裁異様をれども甚だ宏博に集めたる虚誕を云へき母との廉値と云ふへり兼て其織物の地合をも格別は顯々に見せしむ其公磨るる写真もその皆本然と画きたる其地面を至る嚴密に水浅深に至るまで海面上に甚綿密にして據信をきやく書載たる其人民大半を小舟に暮せり余を水中に暮せし此一人民の状を近日廣東に往て十分は視んと望みしを後よて再記録をへり余此港に逼るる間府の四周風景画の如く遠

近の畫材一の欠くる所をれる數個の粉本を取
貯へたり其第一佳麗の一八浦口のナトヒヤ
ルド^{海軍}の近地は在る隆起セス地面の景り此地
よりハ一府の全長皆目を寓とへし志く崑石の
山身其風景画畵の如き者の麓に在り其山の形
状を喘吐國の低阜の地は在る山岳と相似たる
若夫山岳状の群島無散簇せる者も畫幅上の後
面の景を寫出せ此は對して近邊に在る小山も
黄赤の石土は成り青緑の暖色を呈し一簇新緑
の樹木其前は生し凡景を鋪綴し其樹林芋も

青白ふるるナラニト石は築成せる佛堂の後は
隱き浦内は多許多の船旋泊し内は五六隻の水
蒸船あり大小一からとれを少く離れて一百
門砲^ナ十二し船艦一隻も十門砲同上艦艦一隻
共は木屋を以て蓋覆し恰も一隻の老寺院の如
し此船隻も完良なる壳船にて国用を久しく忠
誠に充しか今を異國の海中に委棄して其腐朽
をらに任じ船上は給仕を海侶も數々此船の
如きものありとせし境に此船一も今よても阿
片を貯ふるに用ひ一も客館を其尤小なる

一隻の艦艇ハ^字迄寺とあり一百五十人を容る一
余上よ云へる風景を丁寧よ紙上よ寫し顔色の
施し後掌中書冊野榻天幕を強し寺鳴し前よ
云へる小寺の内の佛殿の側よ人の出未るや
よ爲せし一老人大なる眼鏡を用て余を認め
「^{フツ}テニカ、^チナング」度此方よて意出と云ひて余に
挨拶し一小碗の茶よ乳も波糖も入きとく余
ニよふ余よぬよ酬りに一束の「^ハピールシガ」
レ^ニ煙^ハ別製^ハの^ハ解^ハを以てせしかち土風の禮謝
を述へ數度腰を折り拜したる叔父主共よ仔姑

烟を吸付たる時老人余を導て佛堂の内よ入ら
しむ歩行の間よ云ひしを此の如き仔姑烟を贈
遺するに此地よくを女一の價よしとく本に
一ツケルリングを價ふ然も猶廉値とせし
と話したり佛堂の内面を鉅大にして一行數十
の柱を建ち其内廷宏潤なり古への「^アトリム」^政堂
の制よ畧似たり堂の入口の正面よ第一たる佛
の高坐あり兩側よ二個の稍小なる像を安置し
その二佛も其位稍卑き者たり支那の佛像も柔
和なる眼つきにち腹膨出鬚薄く髮尾長く怡悦

せる顔色を至或は獅子蛇守宮及他の異獸を奉
信く前にも異様なる香案を供したる人々の
皆知もる所たり又筆にも書尽さざる状の瓶
及び他の諸器物を主人を以て帷に堪さらし
む余を導ける人を其器物の用を説明かしたる
其用法大半を余亦これを解し得ることなかり
し其故も余も支那の言語を解得ざるをり三
四の婦女正し佛を拜禱し初る佛像の前は在り
席上は跪き數回其前額を地上は頻する後無數
の籤を納たる筥を久下と揺蕩し其籤一本内

より晚し出ると至る籤上は記たる字を側房に
坐せる僧に向て呼上くや僧亦これを記録し是
の如くして六七回及復すや此を進行し其度
亦く記したる全紙を取て一定せる文章を為
す此類の紙も多く絲を貫きこれを壁に掛く此
數文紙にて一種のトリステール^{星宿面}を
造り就て其後信者一束の藁穂又巻て切たる紙
を兼取る紙の中は香ありや火を之に燃す
く數度第一の佛像を拜禮するあいた前額を禱
り又幾個の鉢を盛たる鉢の内は香を焚く

香爐を第一佛の前ニ別他佛の前ニも案上シ
列子あり香の火焚キ薰ムるニ及ヒひク跪スたる女
人半月状の成せる竹根片を額ニ當テ、後ハ六レれ
を高く舉ゲけテ落ス其落たる状ニ一レ種ノ吉凶
を判ズる兆トなる是ニ符禮ノ法終ル
同様の法を余又所々ノ寺ニても見タ至レ一レ殿堂
より僧房數個を分チ其一區より瞻符ヲ存セ
しもあり又一寺ニても正ニ置テ入口ノ左右ニ二個ノ
獅子と置キ指前ノ方ニも旂竿ヲ植ツ其數ト大
きと寺ノ大小ト其須フル所ニ隨テ異同アリ

余府内を探討スる間ニ「先」氏ト云ハ
る英吉利の弘法使者と相識レり此人ハ眷族ト
共ニ廣ク弘法館ニ住メり深切ニ善ク聞ケ
たる人ナリ人徧ク崇敬ス後香港ノ「ビス」
許ニ詣リ見入んと約シた至リ其僧ハ僅ニ四十歳
かきと容貌舉動七十歳許ノ白髪ノ人ノ如シ其
人ハ其夫資ト學問ト速ニ其高位ト其
諸事ヲ多く輸出スる官ト登リ入リ器量アリ
人たるあり其俸入ハ二千ニトスルニシテ
に下ラし人々ノ話スる所ニ余ハ其然ルを信ズ

へき道理あれ其言を疑ふと採用するよ上よ
云へる二僧も其官務と其一個の別様生理と由
く自かゝ家の父尊と存しと敬崇をへき身分と
て杜嚴あるビスゴの殿及び壯麗よしと簡易
ある弘法使者の館の儀表たる人たれも余も
よ就く疑ふへきことあり其須ふ所の金貨も其
大半を必らず道と信するよ篤く親しく相接せ
る人々の聚り供奉せるるるへ此金泉と施捨
せる人の志願の如くに用ひらるる者なりや誠
よ疑むべき事能はると顯貴ある夫人にがへイル

ル纒地の行旅の間温都斯當巴社の弘法使者の
事を述へ其暮しは簡易なるとも富贍に且其
人歐羅巴の婦人と婚姻し此二事善事を行ふ
に大害あり就裡此婦人多くも其上は氣候は習
ふよ堪へをれぬ敷く不時又定時を以て本国に
返る其旅行殊に皆鉅大の路費を須ふ故に夫人
謂らく契利斯督及び其弟子の使者となる者
は少くも係累する所なく四方に旅行し國人を
教誨するか如き此間に在ても亦採用ひて以て
此人輩の法則たるをべしと云へり余も見聞し

る所を以て其を此土の弘法使者も彼夫人の
言へる所の弊を以て行ふとも彼言を以て適切
願の如く実意を以て行ふとも彼言を以て適切
ありけりといふべからば余自づから謂らく婦を聚ら
ざる固より悖倫のたゞたむを要するも此輩
も其往きて教を弘むる地の女子と昏むるやふ
に其人を諭さん欲し如是なる者自から其人
と此土地との間に關係を生じし若し此嫁娶
にて生じたる小兒を其土人は屬し其を長育
せしむる道德盛名を以て好む契利斯徒とある

り仰ぎ尊ぶるも至らざる其功用弘大なり契
利斯汎の道心を恢弘するふと殊に盛に毎年土
語を譯せる道教問答及び他の舊書を人々に施す
ふる百萬部に及ぶといふも大半をこれを引
裂紙し其に過するは比するを優ること萬
々からしや
一日太陽日は方て英吉利の戍兵の寺院の方へ
行くを見たる其初め兵營の前庭より検査しア
テュカン上官前面を上下より監視しカポラーレ
おれに跟随し又兵士の前後をも點検し或る一

帽を取り或る索條を取り彼是の物品を非難し
軽く午よき推して足蹠を舉げしむ歩操法に記
せる如く為して頤を高く擡げ鼻劍を流し至
るアタカントトか歩を停むる地よかポウト止
も立停まりアタタント兵士の姿制悉くを正
し改しむる時かポウト止も又其矢ゆる姿制
を點檢してアチユタント意を著る所あり或る定
りたる合番の姿を為せるかポウト止其携へる
る是班呀忒誦の杖を腋よ挟み羊仔皮に釘装
したる汚穢の小冊子を取りし其云ふ所を記

録し録したる所の事を其人よ向て開諭し切要
なる身姿の本制を謹て上官の云ふ所の如くよ
導守せしむ其後アチメレトの兵士歩を起し
寺よ向ふ音樂も先よ進み壯麗なる行列よ推
出する人員も唯剣のきを帶ふ其人も皆申分なき
人品も其姿制の佳好衣服の壯麗なる見まか
ふへくもあらは是くの如き行列よ寺院よ詣
る礼俗も余疑なきものと能はば唯余唯らく此大
陽日の午後も全隊の兵士下等なる支那の男女
が栖たる穢汚なる府人の家裡に入りし其痕跡

を見ざるるへい
船中もて我門別種の歡樂を為し我船中の船卒
等演劇の設あり余も防護たす前甲板を舞臺と
供し中甲板を觀場なり甲板上より八尺許高
きカムパリ子を棧敷と為し棧敷より英吉利分
隊船の將士佛蘭西フレカットの將士及び府内よ
り招請せる人々これより坐し其内にも尊眷教輩
及び米里幹分隊船の將士等あり全甲板上帆
及び旂より圍擁く大正廳に變カク若夫我等の
樂人カルクケス舞臺の前を占む今爰より敷套

の戯曲を記し
其初齣も劇名なく標目を「テブルデン」アリメ
ル陰伺と掲ぐ此一套を密賣に富庶を志する
佃戸を演じ既より佃戸密賣を止めんと欲せ
しかとも貪慾の念猶断なく尚こゝを進行ふ間
脱犯の疑を得て緝捕せらるる死罪と處せらるる
とせしむ本犯幸に見出さるる死せしむるありと
得たり其藝を行ふ極く真し迫り「コムモト」彼
官の料理人毎常半酔の賣主を扮しを真と一を
るを覺ふ套中よて拙なき者も女ヲチカメ且るる佃戸の

正配も肥大なる船卒ふきを扮し其四イ、イ、イ、イ、
響く聲音此役は甚相應と女子も船中の一幼童ふ
きを扮し此童子も十分は女且の言語を記憶せ
し慈母一隻の木の枝を以て指蓄しと為すしと
此後より笑ふへき子ク、口黒の劇を演じふきを
演じると米里堅の滑稽の戯劇より必らし黒人
を用ひしを其局を終ることをけぬをり黒
人の滑稽も此外より採用ひらも往々好く著作
に入る此局終ると丹作ロルス、ホルン、と云
へる船卒の舞曲を演じ一人の船卒俊尙も舞躍

と又二人の船中の幼童の歌謡あり其一人も小
女子を扮し甚く愛戀しへき容貌ありて大よ與
を添ふ結局としと憐愛しへき滑稽の劇を演じ
題目も薄命あるピルリカッデ、と云たる好
色男子の傳を至此人水に溺死する一船の甲必
丹の孀婦を娶らんとする浅ましき念を生じた
りし今も其夫猶生存し再返り来りし其配偶
を奪返さんとするを恐るし心常は止時を一
人の海客此事を以て自ら任し強て其婦を返さ
んとすを請求む曰く窓前より一瞥せし其婦

たること疑ふこと云ふ曰ルリカッテイ失望と怒
リしるピッキラールと海峯云へる如く二人相
闘一死一生と判たんと意を決す相闘と後
カッテイは大争闘を為しあつち身を遠さけ官の
輔誦を請ふんと欲しカッテイは意を収めしあき
を返す與ふるを欲せし是は於てカッテイは其敵
をアナスタミア郎ち死する甲心丹なるや將た
別るるやあきを辨別せんと思惟せしか此人を
アナスタミアありと思ひ定め傭人の臥房の戸
を開き速く逃をらしむカッテイは受意と暗中よ

く失望の情是に至り遣方なく耳邊を大よおた
きたる如く一も聞く所なく其後氣よ入たる匹
偶々已り臥房の内よ返り入る失意の曰ルリカッ
テイは戸を鎖し今を生存する意なく毒薬と服
しる外他策なく暗中よ毒薬と取ちか峻下
劑を入たる薬瓶を取てこきを服し腹中台ちと
そるへき若悶を發するを覺ふ薄命の究りとし
今を狂騷せる海客他り臥房の戸を打破りて内
に入り其愛せる女人を引出し舞臺の向の方よ
り歩み出る人あり其人をアナスタミアにあふ

と嬌婦の聲よく叫びりカッテイと知らずとも
見舞ふ来りて臥房に肩せらるり今も夜も既し
曉に上よ云へる海客をアスタシアと第二
の按針役よく他へ死せるふとを此人言述たり
其後幸よくヒルリカッテイも腹痛減し申心丹死せ
る上を舟嫁故障かとの公論よく讞辭を述へ
後の好機會と付囑しける

是よく全局と訖りしよ本國にて幕を下し局
を訖むる車葉軋鳴の清聲を聞くに今も却り十
隻のボート船の楫の水を切る聲聞へる我賓客

も各々其本船又も塘士よ返りける支那の小舟
も燭光と音樂の聲よ引出しき演劇の間我船の
四周よ聚りしり番哨より逐拂はき尚命を聴り
さる者を一桶の水を灌きかけ或も石を擲つ
至る其騒鬧の聲劇を観る人と演らる人とを驚
かせり其餘も百事流利しき悪しき事なく終り
た至余今日の演劇を活刷らる任に當り諸人の
考ふる所を依頼しき書物改役の誚をも顧み
我か職務を濟了せり

日本行紀
第八篇
廣東行(第一日)
廣東江上の旅
支那の愚鈍
城壘
黃埔
廣東放遊
江渡及び水住の人
花毎

日本行紀

第八篇

廣東行(第一日)

廣東江上の旅

支那の愚鈍

城壘

黃埔

廣東放遊

江渡及び水住の人

花毎

軍艦
オランダスヨシケン

歌羅巴の館

支那の家宅

海門上の生計

魚肆及ひ菜肆

擔夫

政官の住居

着衣

手業及藝術の智工

日本
内府

絹布の店

欺者

支那の画畵街

一千八百五十三年四月二十七日媽港よりの

説話

我等昨日未混誰〜耳も聲は〜且臭気強し
廣東より帰り未せり○予が見る所の事汝
は明々小理會せしめいよハ何より説その〜且
き〜知らば蓋予倦勞〜阿片烟を薰ゆる人

の自覚中が如く同様、終りの二日中、遇ひ
多し、法事、いさゝか茫然として、混乱せり。○予業を
る。小此迷路を出ぐ。明は記さむ。ハ海路の標
的となし。ある紙を予が眼前に引き解る。順
に従ひて、説くを最良なりとて

我等改日、おく。碇を下し、船中より一二の品類を
貯蔵した。その後我等、廣東江を上りて、黄埔の方
より上り、○支那の長狭船救艘我等と共に行く
事、汝求免く我等の引絶は、寄り付ルリ其船の一
艘、ハ塩を積むたり。其主人船の高き課金と

出れを遁まむが、乃ち内々の高賣を乃ちむ。おと
を望み、此貪欲より、船は荷を積む。込む。いと重
き。小過ぎ、高波あせむ。船舷全く没し、打ち入り
て、波は水充滿し、將に沈没せむとせり。此恐怖
せる支那人不幸、いと繩を擲ら。我等船を、
むら前より、已に一里も後を、沈溺せむとせむ。の
最大の危難は、遇へり。○彼等我輩を望み、大声に
泣き、叫びて、救助を乞ひ、船縁の上、坐して、半ハ
水中に有り、其中一人ハ、實に感覚の鈍なる者あ
り。と解垂せり。尾頭髪を復美藤は、顛上は、巻き付

け多る模様ハ恰も此異変なる席ニ於て原語ト
とあり夫婦同席と云う橋上の敷物といふ今此難
一方く髪を正しく巻ふと云う故に誓ふるなり
愛慈の世界より離別と云ういと欲せしが如く
○たゞは許多の漢船十分其近所に居りふまを
賤しと云う其難船より浮く流るる諸材諸畜を拾
ひ取らばりしと云う雖其一船も此不幸人を救即
せむがたふまをさるものとしてハ毎るりき○我ガ
弟二の快船一霎時中又人衆を載せ濡れ腐り多
る支那人を救ひ一繩を其難船に結禁く我等は
此船以て我本船に引寄せしり○大轆轤の救

箇の起器

滑車墨くある器より
氣海観潤廣きと云説有

を以て此小舟

は結び付け忽水上に引き揚げたり○一隊の水

夫其水汲み尽し一時を過す己は海上の

業を営む小宜き小至きり○然もとも積多る荷

物ハ多分紛失し其舟人復媽港に歸せり我等

ハ夫より救多の群島を通りて旅航せり

我等日中頃ハ廣東江の本口に達せり此江は

よハ四里許の廣さあり適好高さの二丘上は異

常の築法なる城あり其水は沿ひて廣き砲門あ

る砲臺を築き砲口を水面上五六尺許あり

と見や他の壁墨を砲門なく山に傍ひく登きり
然れども其地の上登せしが故に水と平準を
處を除くの外に城内に敵の火を受くべし○
二城の間江の正中に第三の城あり其を只十
分多くの加農砲あるが又ハリニ一砲ありく
せは援けに此間の通路に適宜に守る小足るべ
きのに然れども英清の戦争中軍装せる「ヨンケ
」^船怒兎乏しく守城の衛兵も亦最初の破裂に
落ち多し時直に奔走せり故に英人多く勞せし
して此口を侵掠せり

此江高く上るに從ひて江濱漸く低く廣濶なる
稲野丘岡の爲に狭くはく漸く成し○江口を
距るふと遠うはく巖石多き高處に一小邪
神の叢あり又ふより先き小此の如きその四
箇ありて其最終の者を廣東の前府中とあり○
江渠ありて廣き平地を諸方に向ひて切り分ち
ち其濱に大小の村落あり○土地稍高き處に
此村の家宅を建てる小強固なる築材を以て
せども低地は多くは机上に立たる竹小
舎なり○此故に洪水此野に溢流するときは此

諸村を其同救の小島ある景色と有る。○我等落日の時、黄埔に達せり、かくハ廣東より十二里許なり。

此處ハ「バムゾルグ」の「ケリス港」「ブレメン」の「ブルメル港」の如き廣東高賣の積場なるの外は多く記すべきことあり。○かくよん江流終り浅くなり大船は遠くかくより上るを得ず故に荷物をかくよん「ヨンケン」前は及び「ポリーテン」船端小移し積じ。○此處は救百軒の竹屋あり、かくよん相應しあり人員あり其人救はるを全く端舟上小

く生計と營む。○諸船の爲に良き安全廣瀬なる下碇處あり、内地と廣東との交通を爲し易し。○然もかくよん此處はある稲田ハ朝夕の交代するが爲に日は二回づつ水下に入りが故に、かくよんハ其水健全なる處にあり、且飲液ハ江水のこなるが故に屢々痲痺腹瀉を起すを以て益々宜しからば。○此水は「シスキ」ト此多く居るとやとやと「我」シッドレ「メ」ニ官の中集の皮膚を朝に至る汚垢を至りあり。本船はかくよん三日滯留を爲さず故に船將の半ハ

三十六時の放遊を許し、此時を過ぐるの後残りの生と上陸するを得べし然るに予の船に居る人と左まで必要ならざりしが故に予を三日出遊を得たり

此江を海賊のたゞ悪風あり且人とな知るが如く支那人を更に異邦の人を愛せし故に我等咸憤し、四人づゝ組に端舟より往來し市中より成たけ多く一處に居たり

予「ユムモド」の筆者大砲^{コレスト}蹴り及び我が築城の一人と共に軽き竹舟を賃借せり其筵蓋の下に

安樂なる坐處あり短銃火薬銃弾を配分し潮の分る項江を走り上至し其低き濱江を濃厚なる朝露のたゞ見えがごとくおより次第に雑なる「ヨング」舟頭れ出づるおと幽霊の如く袖先の斜橋の左右に近くある大眼を以て新物好む我等以伺ひ見ると見え多り○我等前より言へる邪神堂前より一種の抽税家と過ぐ然もとも十時頃^{「推乃鼓の右」}「ユンク」ス、^{桐羅の類}へツケン「ス」小金鼓及び人声の混雑叫聲し恐るべき騒声ありて廣東に近づくと知ると至るまでハ格別意を用ひて見ると無益なり

○今も霧も晴まて一日よく其景色残るる
とも易くなせり

此府は江濱に沿ひて無数の竹屋を建てる其間
の被此は灰白色なる瓦にて葺き多る稍良き家
あり然見るとの外多く見るとべきものなり○他處
よく巨厦若くは教柱あり或見れば唯屢々言へる邪
神堂と府後丘上より一二の巨廣なる家あり遠
方よりおれを望見む或は城郭なるや或は又一
種の寺院なるやと思はるるのこ○百十の小舟
を濱辺に停ひく杭に繋ぎ相當の多人おれに任

たり其人員を六萬といふ予より其教過ぎぬり
とハ思ふれば其人齊整なる街衢を作らふれも
其國政ハ嚴俗なり目的中よりあり

此小舟の尋常の品ハ十五尺より二十尺の長あ
り竹はく造り竹はく覆ひ其接際を塞くよセ
メント石炭製の利名の類の類を以て結び合をそ
小瓦裂き多る葎ひなを用ひおれを以て板と

板とを縫ひ合せり○此小舟多くハ貧なる漁師
の住む所なり其利得の模様は因り居處を變
げ然もとも婦人を通例舟中の後部より立ち長き

舵を前後ふ動かせし舟は進むと猶魚の尾
を動かしが如く舟中前部より男子ありく同様
の舵を取り其間より側より置きて網を投げ出た
す○舟の正中は厨あり又小児の居る處あり然
れども幼児ハ其母の背上若し兄若し妹の背上
より固結を○一尺許大の小なる家神杭前より父を
點し多し燭を置き其前より尚一小處をのぞく
然るよりふき水は住する人民中の常人なり○
アリストクラティ法官政官江より古き用ふべ
くらぶるヨッケニ前より住より其中心よりハ階

の棲及び廣き着到處ありありハ壺内一二の
飾花を挿入するは固く一種の夏坐の景況を為
す○彼此の處は班より画き渡金あり大々
る舟は過ふし少くははふきをフロウエルボット
「花舟」と名づけし黄色なる支那の美婦よりより
航過する客は色を賣るなり此類の舟中より此
類の婦女住居するふと「ハリース」佛蒙西より多
分四合ルチール、我等ルテ、婦タメ、ヤレットの住むは同一
大なる高船ハ多く江の中央よりありふき重き鈍
船より二十尺より二十五尺の長あり高く水

上は出る非常な廣き「アクリルステール」へ「マキ
ワラ」より続き折れ曲りあり画き金で鍍を其
船尾の外面の中節を通る材蓋はハ大なる藁屋を設くふきよ固く不工なり
法益不工に見ゆ櫓ハ非常な重く一尺の
木に成り其尖端は滑車を具へふきよ二三寸の
太さなる縄を通しふきよ以て重き藁帆の六尺
より八尺間は竹幹を以て張り出せる者を巻き
拂ぐ○「ポルステール」へ「マキ」がワラより続
外面の中節は多きを赤く画き前は言へる五
通り多る切天許の人なる目を左右に具る者時はふきよあり

ふきよ固く其船巨大なる災の形は見え以て龍
及び異形の海獣を駈る小宜しとしふきを以て
支那の物は送ひ易き愚人水に住む所なり○此
大なる高船は通例一二挺の大砲を備ふるハ海
盗を防ぐる為なり
少く多く府は近づけむ江の中央に建てる城
は近く殺艘の軍船ありふきよ尋常の高船より
少く銃き製造より船亦爾く高ららば○其両
側は三介の砲若ハ四介砲四挺若ハ六挺を備へ
「ポルステール」へ「前」はハ重き「カリベル」一二

扱又後蓋上より三の加農を載せりも問ふべきあり
至○三のワルズスセン銃の名の身長六尺より八
尺より一丈腹の中径二寸なる者起器より船の側
より付けぬる臺上より周旋は○軍兵長銃刀劍甲冑
を帶ふ然るは其銃ハ火縄を用ひて発せりなり
又尚弓矢を以て戦ふもの多し○其船を帆の外
より尚二十五扱若ハ三十扱の長尾船を備ふ
日の中某の時より（市々三四なりと思ふ）命令を傳
ふ其時おとよ金鼓鈴叫呼及び火器の投発より
耳伐聲ゆべき騒動を為す

おとよより一里半許遠く渡りぬる項旅館より達せ
至英吉利亞米利加拂藁西及び他邦の大旗遠く
より見ゆ○此旅館の地々支那人より買ひ取り
處より一々近來發明の西羅巴風より建つ大夫なる
壁段繞せり○此住處は江の間より味よく編み出
るるよく手入るる固圍あり予々知る所を以
てそれを異邦人の道遙よりハ二ツとなす場
處なり此處の中央より甚美廉なる小寺あり○此
旅館の波戸より一對の埒の四五十尺なるを別
るる遠く江中より達し一種の隔てしたる港を為

一舟の爲小狭き入口を設く是ハ異人の支那人より屢受くる苦難を知るときハ過分と見えざる用心の一規律なり○予又此旅館の家を大夫なる戸を設け許多ハ書記室内よを飛道具を備ふるを見しり

廣東貿易の事は就く考思する所とハ予十分ハ其教を度々す然もどもあきま工となる人此國の輩り於る上海ハ茶の交易に就きし殊に廣東の危き敵對匹敵と云ふ事となりかゝるといふ然もども廣東府中の貿易の非常に盛なる所とも

黃埔小在る船の大夥なると旅館中の繁昌なると押し廻す金のメ高と金利の高きとより推せむ十分ハ明白なり○予が殊に考思する所の者も書記室に居る教員の支那人より受け取りたる金貨を點検するの事課業とするあり此人も此人ハ小時中一最多く通用する金貨「ドル」を納きめる金囊を檢し其製の「スハニール」アメリカ若くはメキシコなるに従ひ其片を仕分け別籠に納けしむる包とハカ○其金の出入るる谷商家ハ其上に印打し因る金貨の形

なるよりハ型となり銀片なる者多く又故填す
る者多きに至る○然もとも支那人々曾ふく小
當違ひするふとなり又當違ひするふとなり
ハ大高に於てハ其金銭秤をなり然る小格別
なり貸片ハ支那人取り入れの時精細に吟味し
て一セント「トル」分に當るを亦銀目少きや否を等
定むるもなり

我等旅館の園圃中へ来り多る頃支那の一種の
雇人諸店住處記を多く取りて我等小手渡し彼
を奇異なる英語よくふき強程好對話し彼就中

「ゴウ」ホウ（牛舎）のふく多言し我等は誘引
せむと欲せり○此惡漢實は其「ゴウ」ホウを
以て如何なる惡魔を指すと云ひながら彼を
随ひ行きしは彼旅館門より校き支那街を導き
し頃其街端は高人「アコウ」名茶店あるを見く具
誕解け多り○此主「アコウ」を肥大なる支那人よ
し大に長き尾あり長き青衣に包まれしが我
等も向ひて中食朝午間又午晩を用いべくやと
問へり是ハ我等の正に嗜好思ふ所なり○其食
物ハ英吉利風を製せし雖却て支那風の料理最

大の面目となす。○甚美味なる「ゴテレット」の羊豚
肉を予々多少所好し思へり蓋予ハ其氏鴨の「パ
ステイ」^{食物}の名物を食しむと其支那人の主ニ察語し
「クダクダ」の肉来りしと伺し却て驚きた
る風より「ワウ、ワウ」と返答せしと或は我思ひ
出せむなり。○然れども悉く検査する小我り「
テレット」を家猪肉なりしと明なりしを以て
其欺りたるふと小服従をへし然れども予が過
るる街を諸種の鳥籠に入せし賣り出せし
と其中より二三月を居る小狗を籠に入せし

を見くみき我食膳調理の目的は撰用せしと思
はるふと知志むゆへ。○我等此の如く氣力を付
多し後廣東を觀るの用意せり然るは我輩漸く
此狭街中を一二百歩せりと直小此金を自力に
ち成得難き^難ふと明なり。我格り引き歸りて評議
をなし而して尚一尊者を取用ひむと決せり。○
而る小貯蔵の食料多量を賣りて我の諸船に積
み入るる人の内此尊者とならむといひ我等の
隨行すべき路筋を定先急度其人の動靜に従べ
きふと我我等に教え込むるは於て全隊帆を

揚け銃く風は後ひく来り波濤荒く上下せり人
間洋を割通るおと浅ゆあり○近處はありぬ
街ハ「オールド、カニ、子ウ、シナ、ストリート」稱し「バ
リース」併調西の都の「バツサーゲ、フニ、ヘット、バノラマ」と
略相似たり但おとよハ常に中和の氣候なるを
以て玻璃蓋を用いたるを要せざるの大異あり
○此街ハ十二尺許の廣あり大なる「ガフニート」
石塊を敷き連流中央は水堰あり左右は店あ
りて金を鍛く絹布を高ふ人茶を賣る人其品物
を賣り出さす○おとよ北側はハ尚廣く静なり

南街は「トウ」より始め「一種の魚店及び
野菜店」を表せり此處ハ「バリス」の「マルヘ、デス、
イニ、ノセニツ」の比をれども其上面の百分
一は「ベ」其雜沓騷擾し許多の職業を賣
買人と人民が風儀を以て見る時々おとよを比せ
るも當せれとす○大桶の底は空管を加へ常に
水を充てて泉水の如く流下し其下はある盃盞
中許多の莫類蟹類は注ぐる為を能く其の多く
を予が未知らざる蔬菜及び果実の高き足伐の
間はあり○擔夫ハ或る獨りたり或る差し荷ひ

よく諸種の物を竹棒よく擔ひ彼此に往還を
を見しは其内は殊に平扁なる盆桶は甚小なる
鑊鏝及び「セルド」^名の一種を入るあり予
は其の氣を付あり○此擔夫を總べて一種は
よ自性なる人よく強剛漢なり最重なる荷物を
容易なる様に見せりけり疾走し常は「オヘ、オヘ」
と号叫し此狭き街(六尺許)中は廣き路を開く
予此の如き人の右肩上最多く荷を擔ふ處は堆
肉を生じく不巧壓推する徴あるを見り○此
他其他の人民は常は歩し進み殆何處も

止まらざりたり然ども我等一二の細工物を買
てむが為に立ち止るとは忽新物好の人聚り
り来り此狭き街を全く閉ぢけり擔夫をしく重
復し「オヘ」を言ひめあり○此くも亦役所
及び近所處は改官の住居あり
其筋房は細く彫鏤せる木柱よく壯飾をなす此
中へ支那の歩兵兩三人懶歩せり○軍装は赤色
利諾布の短き外套より白き縁を記せる者を掛け
青色木綿の短き袴を着け裸足しし鞋を穿ち
編みたる笠を戴き竹を以て編みたる甲ヨイは龍の

首を繪がけるを被り多り○予等が入り多る茅
一の廳は接し廣き房あり其中は火なる神像
あり像前には神臺を具へ多り又其左右は二個
の立像を繪き其一個は劔を把きり○此房は
多く武具が整置せり即長槍長銃中は鎌状の刃
なるあり其尖の西側は半月の刀を附る者あり
其他弓箭二個の長さギンガル兵器の
名不詳及び二三
の銃火索を用ひて放射せし者あり○此房と
庭と小並びて矮なる殿あり蓋し役下及び守
兵の宿所なるべし又一柱は強壯なる班馬を繫

ぎ多り予が廣東より馬を見しは是のこなり
馬の側は小柱を建てる金の鍔カサを施せる鞍は紅
天鵞絨を被ひるそのは懸け多り○此殿の後
は更は一庭あり其後二層の家屋あり其上層
は家眷の寢室なり
予貴族の娘子の密閉せる肩輿に乗るを見し
るは唯一回なり中等及び卑賤の婦人を乗せし
途ふたと甚稀なり○中等の男子は通常青色或
は灰色の長き外套の足に至る者を被り或は白
色の袖なる外套長き膝に至る者を被り黒色の

絹靴其蹠甚厚き若し穿ち短き袴と白氈或は淡
黄色の布より縫ひ行騰を穿ち寒冷なる時
ハ長し踝より股に至る者なり○每人總べて頭
を刺り唯其後頭は四五寸許の廣さは髪を苗め
此より長く組み多し髪を垂せし脛に至る或ハ
此尾辨髪を頭周は捲き小なる黒絹の帽を戴け
るにあり

政羅己人々唯其前街に入らざれば得へきのと
若府内に入らざれば欲せるとき土人常は罵詈
しと云ふに拒む或ハ傷を被らざれば至る

予等常は府壁は傍ひく街上は行歩せり此壁の
外側にも亦多く小家居あり○予等屢々狹隘な
る低き門の前を通過せり此門ハ府内に入らざ
るき通路より或は門上小塔を設けあり而して
通常の輕砲二三门を此に備ふ○其壁ハ大抵厚
さ二十尺より二十五尺に至り高さ凡三十尺許
なり

支那の諸府より諸種の工匠街頭に列居せり
故に予等屢々鍛金匠の列居せり一街を過ぐるとき
あり或は又他の街より唯造箱匠の住居なる

り或を鍛鐵匠多くあり鐵業匠あり陶工あり或
る又諸種異様の物件のこを舗頭よ展開せる處
あり其用の如きハ予竟に解其由を得ざる者な
りき

予等の先導を絶へば催促しつゝ勢めく疾行する
を要せしむ其故々予等若し立住するはと僅よ
一分時よ至ると土人其固よ羣衆しつゝ喧噪し堪
ふ能らざるを以くなり○加之凡カノミチヲ久く立停る
は常よ不快なる事なり此其故を狹隘なる市
街中の壓重なる大氣更よ脂油の焚薰する臭氣

と乳香花草泥沼等及び自餘汚穢の臭氣を狭
く極めて人をしつゝ堪へ難うしつゝ心るは以くな
り○最後よ雜香稍減するを覺えける時先導再
び予等よ告諭しつゝ最大沈確と細心と試用する
を勸戒し而しつゝ後予等を引きつゝ一個の府門よ
入らしめしり

門内の一地を蓋更よ富貴なる民種の住構せる
處と見え多り其舗頭しつゝ諸種の抹蠟絹燈を木
杆或ハ竹竿の頭よ掛け且多く漆器を挑齎せり
○此處ハ街上の雜沓大よ女く行歩小妨碍なき

夫と心得たり但時々先導を警戒する声あり
毎曰又予等の疾行を催しあり○斯く府内の街
を過る夫と三條より逆は他の一門より府外
に出たり
此時及び他時於くも一夥の水卒酩酊して府
内を逆走するときは多くは軍鬪を引き出さ
たり而して支那人の常習として動かし輒ち磔
投ぐる夫とす○又其自己の粗暴の爲は性命
を殞つに至る夫と亦稀なくむ
此日と予等未だ府門を出ず前予等の後

幾多の土人喧噪して追蹙し罵詈の声騷然たり
時々予等定然と石雨を逢ふ處を思案し互
に相近接し戦鬪の用意をなしある蓋し若し
不慮の事あると此も予等の兵器を以て彼の徒
を追散らさし足り且兇暴の土人勇敢なる夫と
を知らむなり○然るに予等の先導極めく穏静
なる途に擇ふと見え予等が絹帛を賣る一舗に
誘ひ估人の倉庫中の閑地に到らしむ此處ハ
昔が邦の將校殺名己は先づ在りてサウルの婦人
の類を羅帽を買むとく應答せり○予等此將校

小會し彼等ハ猶未カ「サウル」を買了せざる前最
の兇徒ハ散亡せり
此估人々垂糸利加新約基の姐子等定小多く被
る所の白絹の大「サウル」を繋く者なり此「サウル」
を媚麗なる姿態を以て更ニ嬌艶を以てむるは
兼く其廣き袴袴を以て稍醜態を掩翳するの功
あり○此を造るは精緻の絹を簾ニ張り印
度墨以て其上ニ諸種精巧なる畵を造り而
て後花州枝葉禽鳥等の白曲盤屈せる状を鮮美
なる色彩の縮緬を以て縫着し然るも表裡同齊

緑着る○予の見る所は此縮緬を行ふ者々
皆男子のとなりき然も予等の到くる處ハ
唯倉庫より他の工人も亦此小雜居也○其價
を極安く廉より予も亦囊を揮く此を以て買
むるは欲せしが予も尚ハ牧羊海上に旅行し
べきの任なるが以て牧貯の間色彩褪消をへ
を怕き唯此が為し賞財を消尽せざるべし
得たり但し必須の物件一二を買取せり昂黒絹
の大手帛を四合「ドルラ」を以て買へるの類な
り○凡そ其帛愈々美小愈々麗なる者ハ粗

品の比例よくハ其價愈々廉なり
又他の街頭より遊嬉は供に値き物件の之を排
開せし即ち巧緻小彫鏤せる棊局奕盤は美簾は
截子造り多る草を屬する者花瓶盒匣糖菓盆捲
蒭盒其他百般子様牧奉り亦ふと取得は而して
其間ハ金銀の諸細軟を難へ排へ佳麗実ハ人目
を奪ふは足る○予曾謂へらく少年巧思の姐子
其富贍なる情或々夫婦は伴ひて把理斯の「ボウ
へハルツ」有名の行を徜徉し其懇乞を以て其男
を以て貴消半死に至らしめざる者ハ女人の種

族中最良の奇性なる者と称せべしと而して今
廣東の府内を通觀するハ佳麗巧緻目を奪ふハ
兼祜は其價の廉なる事實ハ妄誕の如くなれを
益々嗜欲を旺盛せしむ斯の如き地ハ右等の姐
子徜徉する大とを得て而して能く懇情の言を
棄せざる者あるハ是実ハ天女として只翼を欠
く者と謂ふべし
但其價の廉あるが爲めあれを論ずる大となき
買取せむ亦誤る大となきべし其故ハ予屢々
遭遇する所ハ據きを初め尙ふ所の價の半を以

と賣與するは稀なり而して更に尚か估人
より「コムガア」原註云贈物を斯く稱を察するべし唐音なるべし懇謝々未詳あり予
を贈遺せり是蓋此地の常習なり○凡支那人を
常々改羅巴人を誑騙せばはと成務む而して常
々能く其旨報を達するはと成得るなり蓋し支
那人を世界中最大狡猾なる者にして且毫も廉
恥の意なき者なり○若し其貨物を買ふ者早く
其價の真ならざるが翻悔しは是れ怨言とると
此を估人只管う大笑此客ハ估人よりも更に狡
猾なりとて謝り去る○斯の如く誑騙ハ此地に

とハ估人の職務とて稱しはるる也
支那人算計を行ふは一種の盤を用ふ盤上は
枚條の細線を設け此は木の小球枚個を貫く○
第一列の珠ハ每一個一位を表し第二列の珠ハ
十位を表し次第より百位千位に至る○支那
人の總べて「カス」と名づくる銅錢を以て算計せ
り而して此錢千二百五十箇を亜米利加の「ド
ル」ラールに當るとりきを其算計ハ常々驚く處き
大枚に至るなり而して是も成行ふは右の器
械を用ひて極めて容易に完了す○出費と入費

と或較べ算をうふハ複合の盤を用ふ其珠ハ一
側の者ハ黒く一側の者ハ赤く染めあり以て甲
人の有餘と乙人の負債と或連り舞ぶぐくハ
む〇右ハ謂へる高舗の一ふく予が同行せる亞
米利加人支那人の舗内ハ在る者を一く大ハ駿
擾せしめあり其故ハ同行中の一人巧くハ猫の嚙
啖を憂むる者舗頭ハ立ちて猫声をばり且つ卓
子の下箱櫃の間等或指し猫の避逃をを見
る状をなせりハ由りとなり斯くなりハ其む
全舗の支那人大ハ煩惱し猫を搜索しハ駿擾せ

り是斯く貴價なる貨物の舗頭ハ最猫を拍つ
くハ由る〇予等ハ其を見る實ハ哄めを恐む難
かり記すハ其の状を記すハ其の如く然る
予又嘗く一二の繪手舗を觀望せり而しハ其作
る所を見るハ大ハ香港ハ在る畫工の作は勝つ
至殊ハ一二の物件を摸しる者々大ハ自然に進
ぐ且つ稍巧妙の意思を見るべき者あり但其圖
寫の法ハ極めて恠異と稱すべし即次の如く作
せる者なり〇物象ハ寫すハハ皆紙上に於て
此紙ハ其色彩ハ天鵝絨一般の光澤を得せし

る者より花弁禽鳥昆虫及び服飾を此に模し
ると此の如きを見く甚佳趣ありむる者也○
但し其油彩畫肖像等も尚不甚拙陋なり其肖像
々々太抵^{タビ}タビエロ^{エロ}ナペン^{ペン}鏡影^{カウジ}の^{カウジ}圖^{カウジ}に倣ひ造り
者なり然も其製巧致なく手等々多くを誤
写をなし全局總べく甚疵瑕多し○山水を稍志
きは勝るに殊に洋容高館の圖を頗る佳なり蓋
し英吉利人の稿本に就く摸せる者なるべし然
もども尚其製陋し且瑕病あり○遠望の状
を写その術の如きを支那人を全く^{カウジ}を^{カウジ}知ら

ども云ふべし○右の畫類ハ亦彼の最早の價
を以て驚せり○
遊觀に疲倦し吾等の旅館に還りけるアコウ
君更に豊盛なる午餐を設けり殊に一二の支
那風の^{アヒエ}肉^{アヒエ}及^{アヒエ}び美味の蔬菜よく甚か珍
賞に堪ふり○予等食思正に盛なる調理甚
知精良なりけむ此卓膳ハ實に厚謝を堪
へき食後の點心ハ諸種の菓品の外更に小な
る其美の官人橙子を出せり此物を實に世界
最美の品と稱すべし又リシ^シ按^{アヒエ}と曰へる者

を供は是美味の胡桃子の類よ〜其皮ハ亜米
利加の扁桃よりも更ニ薄〜○此味の杖を膠状
の質中よりあり〜此膠質も亦共ニ食をべ〜其新
鮮なる者々稍葡萄の味ニ類〜乾々せる者々糖
藏の「アナス」ス葉石小彷彿〜○食畢り〜後予が
同輩ハ須好の馬泥子誘捲蒿を吹けるが予々支那
風の水煙管を試〜○此烟管ハ黄銅より造
まる者より〜其頭ハ大ニ尋常の「ヒンゲル」アウ
ドド斗斗より大ならぬ○侍者一人小盒より烟草
を把り〜ウケキ火付ウケキを以〜火付點燈吸ふ



